

行政視察報告書

令和6年 10月 15日

長浜市議会議員 高山 亨 様

長浜市議会議員 岩川 信子

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 行政視察
2. 視察期間 令和6年10月7日(月)～10月9日(水)
3. 視察場所及び目的
 - ① 宮城県利府町・「利府町まち・ひと・しごと想像ステーション」について
 - ② 大川震災伝承館・南三陸311メモリアル・「災害の伝承」について
 - ③ 宮城県南三陸町・「南三陸病院・総合ケアセンター」について
 - ④ 平泉世界遺産ガイダンスセンター・「文化遺産の伝承」について

4. 視察調査感想内容等

・視察の目的

- ① 「利府町まち・人・しごと想像ステーション」・維持管理の手法を学び自市へ応用可能性をみつけ、住民が気軽に参加できるワークショップの運営方法、市民と行政の連携方法を把握市、地域活動の促進につなげる
- ② 「災害の伝承」・東日本大震災で実際に起こった被害や現地での避難行動、救済活動の教訓を直接学ぶことで、災害時における適切な行動リーダーシップの重要生について再確認、災害の経験を次世代に伝えるために様々な展示が行われていることから、長浜市で活用できる防災教育プログラムや展示方法について

長 浜 市 議 会

て学び防災意識向上の施策に応用できるアイデアを得る。

③「南三陸病院・総合ケアセンター」・南三陸病院は東日本大震災を経験しを得る、そのため災害に強い施設として再建された病院であり、災害時における医療提供の継続方法や、地域住民に対して地域包括ケアがどのように実現されているかなど学び、総合ケアセンターでは、地域住民や地域団体との密接な連携のもとで医療やケアサービスが提供されているので、長浜市における地域医療と福祉の連携強化に活用できるよう学ぶ

④「文化遺産の伝承」平泉は、世界遺産として認定された文化遺産の保護と観光活用を両立させるためのノウハウが蓄積されています。長浜市も文化遺産が豊富であり、その価値を保護しつつ観光資源として活用するための方法を学ぶ。また、ガイダンスセンターでは、長浜市の地域の文化を伝える観光施設としての運営に役立てるため施設の構成や、運営方法を参考に学ぶ

・視察の内容

1.「利府町まち・人・しごと想像ステーション」では、移住・定住促進として、他地域からの移住向けの支援策、住民情報、就職、転職のサポートなどされている。事業としてソフト・ハード・運営を一体的なプロジェクト事業として国に申請し（業務委託されている）例えばソフト事業として施設づくりワークショップを開き月に2回開き若者、社会人、学生時には役場の職員も参加するなど若者ならではの柔軟なアイデアや思いをかたちにしているハード事業として拠点施設の整備、用途に合わせて、組み合わせ自在な机、動かせるベンチ、壁、などがあり、個室にも・図書スペースにもまた、おしゃれなカウンターテーブルもありカフェ中心としたく空間もあり癒やされる施設でもあった。

建物・tsumiki

ワークショップ



場所・JR 利府駅

憩いの場

2「災害の伝承」・大川震災伝承館では、大川小学校の悲劇から「避難行動の重要性」強く学ぶことができ、当時の状況判断が展示されており、適切な判断と素早い避難行動が命を救うという教訓を感じます。南三陸 311 メモリアルでは震災直後の地域コミュニティが果たした役割についても展示されていた。避難場所での共同生活や物資不足の中での助け合い、復興に向けた協力など、地域住民の支え合いの力がいかに重要であったかを学びました。両施設とも震災の教訓を未来に伝えることを目的としています。このことを風化させずに、役割を果たし、災害に備える意識を日常生活に根付かせることの重要性を強調していた。

大川震災伝承館



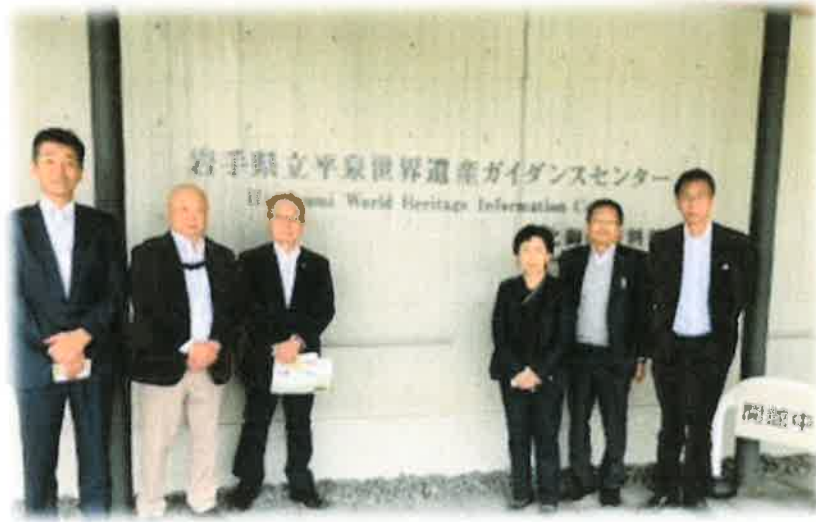
3「南三陸病院・総合ケアセンター」津波を避けるために海拔の高い場所に再建されています。建物自体も耐震。耐災構造を取り入れており、災害時でも安定した医療提供が可能であり、また施設内には、非常用発電機が設置され加えて太陽光発電設備も導入されている。停電時や災害時でも電力供給が可能であり、医療サービスの継続性が確保されていた。ヘリポートも完備されて、緊急時には迅速な患者搬送が可能でアクセスが困難な状況でも重要患者を他の医療機関へ搬送する体制が確保されている。南三陸病院では、定期的な防災訓練や啓発活動が行われ、職員と住民双方の防災意識を高めている取組みもされているとお聞きした。地域防災拠点としても機能し、地域住民の避難場所としても受け入れ、医療スタッフが避難者の健康管理をサポートする体制が整備されていました。



病院棟の建物：鉄筋コンクリート免震基礎構造



4. 「文化遺産の伝承」 ガイダンスセンター内の展示は、平泉の歴史や文化を分かりやすく伝えるための工夫が随所に見られました。映像やデジタル展示を利用しているため、来館者が五感で楽しみながら平泉の文化遺産を学べる構成になっています。施設内には、英語や中国語など多言語の案内表示やパンフレットが備えられており、外国人観光客への対応が充実していました。これにより海外からの訪問者も安心して平泉の歴史を理解することができます。



・ 行政視察の結果をどのように本市に反映させるか

1). 創造ステーションの活動は、

地域住民との連携や地域資源を最大に活用し若い世代やファミリー層向けのサポート制度、子育て支援、教育環境に関する情報も多く提供されており、移住希望者も多くあり、長浜市も是非子育て世代が安心して暮らせる環境を整え定住を促す事が重要と考えています。その上で、地域課題の解決策として一緒に考えるワークショップを頻繁にしていきたいと思います。市民の意見を反映するまちづくりの仕組みの構築したいと思います。

2). 災害の伝承については、長浜市においても、こうした実際の体験教訓を活かし、市民が防災について学ぶ機会を増やすことが重要です。長浜市内の学校や公共施設で、防災に関する教育プログラムや講演会や防災訓練をさらに充実

させ住民に防災意識を根付かせることが必要と考えます。また視察先での経験から、地域の防災リーダーを育成し、災害時に迅速かつ適切な対応が取れるようにすることも重要な事柄だと痛切に感じました。こうした貴重な学びを活かし、市民と共に安全なまちづくりを進めて行くことにしていきたいと強く思う。

3) 三陸病院・総合ケアセンターでは、災害拠点病院としての高い耐久性が確保されている。「災害に強い医療拠点」として地域医療を支えるための多目的な取り組みが確認できました。医療と防災を掛備えた施設の設計や、地域との連携を通じた防災体制の確立など、私達の地域でも参考になる多くを学びました。災害時の医療提供能力や防災意識の向上に努めて行くことが我が市の課題でもあり、何よりヘリポートの存在は、災害時の医療連携において極めて重要であると感じました。住民にも安心感を与えることができる。市立長浜病院においても早期に建設すべきと考える。そこで、従来の日赤のヘリポートを補完する形で、市立長浜病院にヘリポート設置することで、両者の役割分担が明確にし、日赤へのヘリポートは地域全体の搬送拠点と活用し、市立長浜病院のヘリポートは急患対応や災害時の直接搬送を目的にするなど、用途を分ける事も可能にすべきである。高齢化が進む中で、緊急医療の需要は増加すると考え、将来的にニーズが高まった場合においても、市立長浜病院にヘリポートがあることで柔軟に対応でき、地域医療全体の質を維持・向上させる事ができる。また、信頼性を強化し、住民にとっての安心感を高めるためにも有効だといえる。以前からの市立長浜病院が考える計画内容を実行すべきと強く要求したい。広い範囲にある長浜市にも一つドクターヘリもあっていいのではと考える。

4) 文化の伝承について長浜市には、豊臣秀吉が築いた長浜城をはじめとする歴史的建造物や、国宝・重要文化財に指定されている寺社があります。これらの資源についても、平泉のように「歴史的背景」「文化的価値」「地域とのつながり」を軸にストーリー化し、わかりやすく紹介することで、訪問者にとってより魅力的な体験を提供することができる。長浜市も、観光案内所を地域文化の情報発信拠点とし、観光客が市内の各観光地を効率よく巡れるようにガイドマップやア

クセス情報を提供するとともに、観光ハブとして機能させることも重要と考え
実行につなげていく。